

1. 平成 25-29 年度 総括報告書 NIPPON DATA2010 追跡委員会報告

NIPPON DATA2010 追跡委員会

- 研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)
研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者 岡村智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)
研究分担者 中川秀昭 (金沢医科大学総合医学研究所 嘱託教授)
研究協力者 中村好一 (自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教授)
研究分担者 宮松直美 (滋賀医科大学看護学科臨床看護学講座 教授)
研究協力者 斎藤祥乃 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 大学院生)

事務局

- 研究協力者 近藤慶子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 特任助教)
事務補佐 吉田稔美 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 事務補佐)
事務補佐 船木彰子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 事務補佐)

1. 追跡調査委員会の目的

平成 22 年に実施した「循環器病の予防に関する調査 (NIPPON DATA 2010)」参加者を対象に平成 23 年より調査票の郵送を中心とした生活習慣病や循環器疾患の発症調査と人口動態統計を利用した生命予後追跡を開始した。追跡調査委員会は調査内容や実施方法の検討、調査を実施する。

2. 平成 25-29 年度の活動概要

平成 25-29 年は、第 3-7 回の健康調査の実施、回収数の確定、を行った。また、初年度以降実施している医療機関への二次問い合わせを継続、また、イベント判定委員会の求めに応じて医療機関への追加情報の問い合わせを実施した。これまでの健康調査、住民票請求にて判明した死亡者について人口動態統計請求を行い、全例、死因を確定した。

3. 平成 25-29 年度発症追跡調査

(1) 第 3-7 回 (平成 23-29 年) 発症追跡調査

1. 目的：発症追跡対象者の発症の確認
2. 調査対象：発症追跡調査の同意者
3. 調査内容：高血圧・脂質異常症の治療状況、糖尿病・心疾患・脳卒中の発症
第 5 回は 70 歳以上に ADL・IADL 調査も実施

4. 調査時期：10 月 1 日～10 月 31 日 (調査票の発送時期)

5. 調査手順：調査票の郵送

未回収の場合は 3 週間毎にリマインダー葉書郵送 調査票再送 電話による聞き取り 宅配

(2) 調査対象者数の推移および追跡状況

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
対象者数	2664	2662	2639	2600	2540	2505	2464	2409
(海外転出等)				(8)	(4)	(4)	(4)	(3)
郵送調査対象者数		2662	2639	2592	2536	2501	2460	2406
回収数				2539	2491	2446	2391	
回収率		98.3	98.6	98.0	98.2	97.8	97.2	累計
追跡終了者数	2	23	39	60	35	41	55	255
(死亡)	(2)	(12)	(19)	(19)	(18)	(23)	(38)	131
(追跡拒否)		(11)	(20)	(41)	(17)	(17)	(15)	121
(その他)						(1) *	(2) *	3

* 2015 職権消除 1

* 2016 所在不明 1, 海外移住 1

4 . 住民票請求による生命予後 5 年追跡結果

平成 27 年度に、生命予後追跡の同意者 2711 名から、2011 年調査時の死亡 2 名、不明 1 名、職権消除 1 名を除く 2707 名について、住民票請求による生命予後を確認した。これに引き続き、H22 年以降、死亡が確認できた 121 人について、人口動態統計の利用申請を行い、原死因の確定を行った。

	人数	%
生存在籍	2374	87.7
転出在籍	208	7.7
死亡	119	4.4
不明	0	0
海外転出	6	0.2
合計	2707	100%

生死を確認できた者：2701 名
追跡率：99%

5 . 医療機関への二次問い合わせ

平成 25-9 年度発症調査（一部過去の調査含む）の自己申告結果に基づき、糖尿病、脳卒中、心疾患の新規発症等が疑われる症例について、医療機関への二次問い合わせを実施し、イベントの可能性が高いものについては、イベント判定委員会に資料を提出した。また、平成 23 年から 28 年度調査で得た発症疑い症例のうち、イベント判定委員会が追加情報を求めたものについて追加の問い合わせを行い、その結果をイベント判定委員会に提出した。

平成 30 年 1 月 15 日時点 医療機関への二次問い合わせ状況

(H27-H28)

	件数	回収数(率)	イベント判定へ
糖尿病	36	32(88.9%)	24
脳卒中	40	36(90.0%)	21
心疾患	99	96((97.0%)	29
合計	175	164(93.7%)	74

(H23-H28)

	件数	回収数(率)	イベント判定へ
糖尿病	178	171(96.1%)	93
脳卒中	101	96(95.0%)	65
心疾患	299	286(95.6%)	126
合計	578	553(95.7%)	284

6. まとめ

平成 22 年に全国多数の地区で実施した研究班調査「循環器病の予防に関する調査 (NIPPON DATA 2010)」参加者を対象に第 3-7 回の発症調査を実施した。調査対象者には半年に一度通信を発送して、本研究から得られた知見を紹介し、本研究の社会的意義を伝えている。これによって好意的なコメントが調査票の自由記載欄に寄せられている。その一方で、調査票の郵送では回収できず、電話によるコンタクトを必要とする件数も 300 件以上と多い。勤労者層は昼間連絡のとれない方も多い。これらの年齢層には WEB 登録等、セキュリティーの確保が必須ではあるが時勢に応じた調査方法の検討も必要である。高齢や煩わしさを理由とした調査の継続拒否も散見される。全国に散在する対象者の協力意思をどのように継続するか、が最大の課題である。今後も本研究の意義を対象者個人に、またメディアを通じて社会的にアピールすることが必要である。医療機関への二次問い合わせについては協力率を高めるため、医師会の後援を頂いている。協力率を維持するため、今後も本研究の成果をアピールし各種学会の協力を得るなどの方策が必要である。一方、追跡調査の事務局はスタッフの世代交代等はあるものの、年々、追跡調査作業がスムーズに運ぶようになった。院生等含め皆が追跡調査作業マニュアルの改訂等に積極的に関わり、コホート研究の手法を継承・改革している成果といえよう。

第 3-7 回追跡調査実務担当者

吉田稔美 船木彰子 桂田富佐子 近藤慶子 門田文 有馬久富 山添正博 国村彩子
 鈴木仙太郎 鳥居さゆ希 佐藤敦 伊藤隆洋 渋川武志 炭昌樹 鈴木春満 岡見雪子 岩瀬弘明
 藤吉奈央子 設楽智史 山内宏美 瀬川裕佳 布施恵子 志摩梓 Pham Kim Tai 和氣宗
 杉本裕史 全泰佑 杉本裕子 中村翼 川崎緑 菅原悠